

# 幼 兒 教 育

第二十一卷  
第八號

大正十年八月十五日發行

## 幼稚園に於けるプロジェクト

プロジェクトといふ事が合衆國に流行して居る。

我國でも毎月一二の雜誌に紹介されて居るが、人によりて意味が異つて居る。それで何れのプロジェクトが眞のプロジェクトであるか判断に苦しむ次第であるが、しかし漸次この術語の内容が纏まつて來つたつあるやうである。例へば一定の目的を定め、その目的に應ずる計企を立て、其の計企に資する凡ての材料を集めるといふこと、又聯絡の無かつた各種の知識を其の目的の中心に纏めて行き、人生に直接に役立つ知識を獲得する計りでなく、今後の知識開發の方法をも習得するやうにするといふ點である。

一例を取つて見ると、クリスマスが近づくことと、クリスマスが一の標的になり、クリスマスの装

東京帝國  
大學講師

久 保 良 英

飾や送り物の考案製作は勿論のこと、クリスマスの起原、耶蘇の傳記、小亞細亞地方の地理、クリスマスに關する文學的作品、例へばクリスマスカロルの研究、詩歌音樂に關する調査や實習等を行はせる。即ちクリスマスを中心として、各科の知識を聯結せしめ、且つ生徒をして自由に創作し計畫せしめるやうにする。

かやうに説明して來ると別に新しい方法でもなく、これ等の考は從來教育學者の多く想到した所であるといふかも知れないが、しかし現在では最も大袈裟に且つ系統的に之を實際に行つて居る點が在來のものご相違し、且つ方法の上に幾多の新味が加つて居るのである。このプロジェクトは一般に小學校

乃至中學校で行はれて居ることが多く、議論をする者も是等を根據として居るやうであるが、この方法は又單に小學校や中等學校のみに限られないで、大分幼稚園の教育にも輸入されて來て、毎月の雜誌にこの方法が一つ位は必ず載つて居る有様である。

今一例として郵便局のプロジェクトを紹介しよう。ヴァレンチン祭日の來る數日前には子供の興味は、これに關する繪葉書と配達夫とに向くので、此機を利用して郵便局のプロジェクトを行ふのである。先づ遊戯室の一隅に、積木や厚紙とで、子供の考に委せて郵便局を作る。窓の所には切り紙細工の時に作つた種々の花や形を貼らせる。又文字を知つて居る子供に、POST OFFICE とか STAMPS とかの文字を雜誌などの大きい文字から切り取つて張らせる。尤もその前に近所の郵便局に連れて行つて、内部の構造やら局員の執務振りなどを參觀させる。而して前記の郵便局の窓口から切手を賣らせる（切手は使ひ古しの切手を用ゐた）各自がヴァレンチンの挨拶の手紙や繪葉書などを書く、その窓口から切手を求め、糊で張りつけて投函する。さうすると二三の局員を選び、捺印したり、分類したりして、之

を配達夫に渡す、配達夫がそれを名宛に従つて各自に配達をするといふやうなことをする。しかし郵便局は全日開かれるのでなく始業前三十分と午後とで、局長初め配達夫に至るまで毎日交代で任命される。但し子供の中に間違つたことをする場合には、再び郵便局參觀をやらせるとか、或は暗示を與へたりすることもあるが、しかし何れも子供相當に合理的な工夫を凝らすといふことである。

次には一幼稚園に於ける時計屋のプロジェクトを紹介しよう。子供に時計の時間を讀み得るやうに教へやうと保母は大きい時計の表字板を作り、針を動かして時間を示して居た。處が或る子供はその時計を作り出した。その考が級全體に傳はり、われもく〜と時計を作り、柱時計 懷中時計、腕時計等さまざまのものが出來上つた。その時或る子供は値段をつける紙を貼り付けた。それが動機となつて時計屋が始まり、賣り手買手手が出来た。かやうにして數日間は時計が主題となつて子供の興味の向くまゝ、に種々の作業が行はれた。このプロジェクトに綜合された在來の科目を列擧すると、第一は算術で、數字を書いたり、錢を拂つたりすることが行はれ、第

二は綴字で、「時計屋」とか、「時計賣ります」とかの文字が書かれ、第三は言語で、時計に關する種々の會話が行はれ、第四は手技で、各種の時計の製作・著色は勿論、時計屋の製作・裝飾が營まれたといふことである。

在來の小學校では各科が孤立的になつて、その間に聯絡がなく、且つ各科の目的を強調して、兒童の興味を顧慮することが尠かつたが、このプロジェクトの方法では、一の問題によりて各科の活動が綜合され、しかも非常の興味と熱心によりて創案され、作業されるといふ利益がある。幼稚園には一定の教科とか教案とかは無く、これ等に捉はれて支離滅裂な知識を授けたり、又兒童の興味や實際生活とかけ離れた教授をすることは比較的少なく、謂はゞ學校系統中プロジェクトに最も近い保育をして居るのである。しかし現在の幼稚園は尙一層プロジェクトの方法を採用する餘地があるやうに思はれる。幼稚園では粘土細工でも積木でも唱歌でも繪畫でも會話でも、やりやうによつては凡てがプロジェクトに出来ると思ふ。在來の小學教育又は中等教育の全部の方法を廢して、プロジェクトにすることは大に研究の

餘地があると思ふが、幼稚園では全部このプロジェクトに改良して差支ないのではなからうかと私は考へるのである。勿論私は實際家でないから、實際の運用上どの點まで効果を收め得るかは知らないが、子供の興味や努力を喚起すること、又在來省みられなかつた創造的精神を養成すること、又各種の知識や技能を自づから上達せしむることに於て、このプロジェクトの方法が最も適したものと私は思ふのである。この點に於て實際家の御批評を仰ぎたいと思つて居る。